

令和6年度

**利尻富士町教育委員会点検・評価報告書
【令和5年度分】**

令和6年8月

利尻富士町教育委員会

I はじめに

1 趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和5年度の教育行政事務の管理執行状況について点検・評価を行い、報告書を議会に提出するとともに、今後の効果的な教育行政の推進と町民皆様への説明責任を果たしていくために、その結果を公表するものである。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況等のほかに、「教育行政執行方針」の施策に基づく次の主要な事務事業の実施状況について対象とした。

- 1 未来を生き抜く力～学校教育の充実～
 - ① 小中一貫教育を通じた資質・能力の育成
 - ② ICTを活用した学びの推進
 - ③ 学習環境の整備と支援教育の推進

- 2 心豊かな人づくり～社会教育と生涯学習の充実～
 - ① 施設の利活用と団体・個人への支援
 - ② 地域と学校をつなぐ支援活動等の推進
 - ③ 地域の文化財保護活動の推進

3 点検・評価の方法

「教育委員会の活動状況」については、教育委員会会議の開催状況や会議に諮られた議案及び委員が出席した行事等の点検を行なった。

「主要な施策の点検・評価」については、「令和5年度教育行政執行方針」に掲げられた事業の内容や取組状況を取り上げ、自己評価と今後の課題について点検・評価を実施した。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催及び審議状況

令和5年度における利尻富士町教育委員会の会議は8回開催され、次のとおり審議等を行なった。

開催日	出席委員	付議案件等
第4回 4月5日 (水)	3名	報告事項 ・一般報告事項 議案第11号 教育委員会事務局職員の任免について その他 ・教育委員会事務局組織図について ・令和5年度学級編成について ・令和5年度児童生徒名簿について ・令和5年度教職員名簿について ・令和5年度小中学校担任一覧について
第5回 5月15日 (月)	3名	報告事項 ・一般報告事項 議案第12号 令和5年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算（5月補正）について 議案第13号 専決処分（利尻富士町学校運営協議会委員の委嘱）の承認を求めることについて その他 ・建設事業進捗状況について ・第58回北海道市町村教育委員会研修会について
第6回 6月22日 (木)	4名	報告事項 ・一般報告事項 議案第14号 令和5年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算（6月補正）について 議案第15号 学校職員の任免について その他 ・建設事業進捗状況について ・第58回北海道市町村教育委員会研修会について

開催日	出席委員	付議案件等
第7回 8月29日 (火)	4名	報告事項 ・一般報告事項 議案第16号 令和5年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算(8月補正)について 議案第17号 令和5年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算(9月補正)について 議案第18号 令和6年度使用小・中学校用教科用図書の採択について 議案第19号 利尻富士町学校教育推進計画作成委員の委嘱について その他 ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について ・建設事業進捗状況について ・児童生徒について
第8回 10月10日 (水)	3名	報告事項 ・一般報告事項 議案第20号 専決処分(利尻富士町教育支援委員会委員の委嘱)の承認を求めることについて 議案第21号 利尻富士町部活動地域移行検討協議会設置要綱の制定について その他 ・教職員について
第9回 12月7日 (木)	4名	報告事項 ・一般報告事項 議案第22号 令和5年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算(12月補正)について 議案第23号 利尻富士町教育委員会点検・評価報告書について その他 ・産前休暇者について ・二十歳の集いについて
第1回 3月7日 (木)	4名	報告事項 ・一般報告事項

開催日	出席委員	付議案件等
		<p>議案第1号 利尻富士町学校管理規則の一部改正について</p> <p>議案第2号 利尻富士町要保護及び準要保護児童生徒就学援助費事務取扱要綱の一部改正について</p> <p>議案第3号 利尻富士町教育支援委員会の報告について</p> <p>議案第4号 令和5年度一般会計歳入歳出教育費補正予算について</p> <p>議案第5号 令和6年度利尻富士町教育行政執行方針について</p> <p>議案第6号 令和6年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費予算について</p> <p>議案第7号 専決処分（学校職員の任免）の承認を求めることについて</p> <p>議案第8号 令和6年度利尻富士町通学用自動車の利用者認定について</p> <p>議案第9号 利尻富士町学校教育推進計画2024年度～2028年度の答申について</p> <p>要望第1号 北海道利尻高等学校要望書について</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利尻富士町立学校における働き方改革アクション・プランⅢ ・令和6年度就学 学齢児童名簿について
<p>第2回 3月25日 (月)</p>	<p>3名</p>	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 <p>議案第10号 学校職員の任免について</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回教育委員会、教職員着任式（辞令交付式）について ・令和6年度入学式について

* 議事録は下記より閲覧可能



2 教育委員会会議以外の活動状況

利尻富士町教育委員会委員は、次のとおり出席した。

※ 教育長を除く

期 日	内 容	開催場所	出席委員
4月 5日	利尻富士町教職員着任式	利尻富士町役場	佐藤、寺島、 山澤
4月 6日	利尻小・鬼脇中学校入学式	利尻小・鬼脇中学校	寺島
5月15日	学校訪問	利尻小・鬼脇中 学校、鴛泊中 学校	寺島、山澤、 成田
8月21日	劇団四季公演	利尻町どんと	成田
10月10日	学校訪問	鴛泊小学校	佐藤、山澤
12月 1日	中学生主張大会	鬼脇中学校	寺島
1月 4日	二十歳の集い	総合交流促進施設 りぷら	佐藤、寺島、 山澤、成田
3月 7日	学校給食組合教育委員会	利尻富士町役場	佐藤、寺島
3月12日	鴛泊中学校卒業式	鴛泊中学校	成田
3月16日	鴛泊小学校卒業式	鴛泊小学校	成田
3月25日	利尻富士町育英資金運営審議会	利尻富士町役場	佐藤、成田
3月25日	総合教育会議	利尻富士町役場	佐藤、寺島、 成田

Ⅲ 主要な施策の点検・評価

1 未来を生き抜く力～学校教育の充実～

子どもたちを取り巻く現代社会は、変化のスピードが短く、自立して生きていく上で新たな資質・能力を身に付けることができるよう、学びを保障する取組を継続することが必要である。令和の日本型学校教育、すなわち「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現していくための取組を進めることを重点とする。

また、5年度には、新たな学校教育推進計画及び教育大綱が策定された。時代の流れに即応した内容を盛り込み、年度ごとに進捗状況を評価・検証を行なっていく。

① 小中一貫教育を通じた資質・能力の育成

小学校と中学校は、児童生徒の発達段階に応じて教育活動が異なるが、学力の向上は長期的な視野で取り組む必要があり、そのためには家庭・地域・行政が一体となって支援することに他ならない。義務教育9年間を見通しためざすべき子ども像「自然を愛する豊かな心と高い知性を持ち、未来を生き抜くたくましい子ども」を共通目標に掲げ、着実に学力が積み上がるよう、系統性を踏まえた指導的な展開を図っていく必要がある。

本町では、管内各市町村に先駆けて令和5年4月から、鬼脇地区は「施設一体型」、鴛泊地区は「施設隣接型」として、「りしり富士小中一貫教育」をスタートさせた。スタートにあたっては、すべての学校において、小中で一貫した教育課程を編成できるよう、小学校に中学校併設型小学校、中学校に小学校併設型中学校を設置し、2学期制（前期・後期）の採用と夏季・冬季休業期間（50日以内）の統一を図っている。

【全体】

- ・ 校長会・教頭会との協議、進捗状況等の情報共有
- ・ 地域への説明と理解促進（PTA、学校運営協議会など）
- ・ 学習規律や生活のきまりの整理・統一
- ・ TT（ティーム・ティーチング）の推進

課題をもつ授業における複数教員による指導体制や中学校から小学校高学年への乗り入れ授業などを実施。

- ・ 全道規模で行われた学校種間連携サポート事業への参加（導入校、準備校）
- ・ 英語授業取組状況視察（北広島市内：英語専科教諭、ALTほか）

【鬼脇地区】

- ・ 児童生徒会の一本化、縦割り活動の共同化
- ・ 日課（時間割）調整による活動時間の共有
- ・ 中学校教諭による乗り入れ授業（英語、算数、音楽）
- ・ 校内研修・授業公開研究の実施

【鴛泊地区】

- ・ 小中共通の学校教育目標を設定
- ・ 小中連携交流会・研修会を定期的に開催し、教育局指導主事訪問等にあわせアドバイ

スを受けるなどの機会を設定

- ・コアチーム（教務部、指導部、研修部に分かれた一般教職員のチーム）による協議
- ・系統的な「総合的な学習の時間」について、9年間を見通した目標、活動内容に整理して実施。
- ・鴛泊小中運動会の同日開催と相互協力
小：午前（中学生による運営サポート）、中：午後（小学生の競技種目参加）
- ・乗り入れ授業の実施 中→小：算数、英語、小→中：書写
- ・小学校5・6年を対象とした中学校（ICT教室）における英語授業の実施

【評価と課題】

両地区の実情に応じた一貫教育の具体的な取組について、小中共通認識のもと、年度当初からのスタートを切った。とくに、9月に行なわれた宗谷管内教育研究会では、町内全学校が受入校となり、鴛泊中では鴛泊小6年を対象とした英語授業など一貫教育に根ざした授業が公開された。本町の取組が町内外に発信され、関心と呼べる貴重な機会となった。

また、ティームティーチングのように複数教員、専科教員による授業の実践は、学力差を少なくし定着化が図られるよう行われるもので、小学校教諭にとっては負担軽減、中学校教諭にとっては小学生段階からの学力の把握など、お互いにメリットが生まれている。なお児童生徒にとっても、中学での学習（とくに英語や数学）に向けたギャップの軽減・是正につながる一定の効果が生み出されていると考えられる。

一貫教育のスタートにあたっては、「まずはできるところから」をモットーに、実施に伴っては、中学校教員の負担増などの課題も出てきており、それらを検証しながら、6年度以降の一貫教育に活かすことが課題である。

・全国学力、学習状況調査の実施（4/18）

単位：％（平均正答率）

小6（19名）	国語	算数		全体
本町（北海道）	64.0(66.0)	63.0(61.0)		63.5(63.5)
中3（15名）	国語	数学	英語	全体
本町（北海道）	67.0(69.0)	45.0(49.0)	43.0(44.0)	51.7(54.0)

【評価と課題】

町全体としては、小学校の算数以外は北海道の平均を下回っている。上表では示していないが、地区別では、鴛泊地区は小中とも全教科で北海道の平均を上回っている一方、鬼脇地区ではすべて下回っている状況がみられた。

各校で取り組んでいる個に応じた指導や授業改善の充実を図ることについては、従来から指摘されている。学力向上に対する課題は、家庭における学習習慣の定着や生活習慣の改善に対する継続的な声かけにあると考えられる。タブレットの家庭への持ち帰りによって、キュビナによる基礎基本能力の定着化を促進し、学年プラス10分など取組時間を目安に、家庭と連携、協力し、学習意欲の向上と継続的な学習習慣の定着により努める必要がある。

・各種検定受検料の助成実績（上段：1回目、下段2回目）

漢字	受検者数	受検率	合格者数	合格率
小学校	71人	78.9%	49人	69.0%
	6人	6.7%	5人	83.3%
中学校	24人	51.1%	12人	50.0%
	3人	6.4%	2人	66.7%

数学	受検者数	受検率	合格者数	合格率
小学校	66人	73.3%	49人	74.2%
	12人	13.3%	10人	83.3%
中学校	18人	38.3%	11人	61.1%
	2人	4.3%	2人	100%

英語	受検者数	受検率	合格者数	合格率
小学校	2人	3.4%	0人	0%
	0人			
中学校	25人	53.2%	17人	68.0%
	3人	6.4%	3人	100%

【評価と課題】

小学生の漢字、算数検定の1回目受検率がそれぞれ25.8%、57.7%と前年よりも大幅にアップしている上、2回目の受検率も上がっており、学校の理解と検定に対する意欲向上がみられた。

今後も学校を通じた積極的なPRや受検意欲を促し、それぞれ受検した実績あるいは取得された級位を後ろ盾に、個々の自信と挑戦心に繋げるため、継続した助成が必要不可欠となっている。

② ICTを活用した学びの推進

1人1台タブレット端末（クロームブック）を使用したICT教育は、データや知見による探究的な学習の加速とともに教職員のICTリテラシーも課題となっていることから、教職員のICTスキルの向上、子どもたちの探求心へとつながる更なる新しい環境づくりと学びの実現に取り組む必要がある。

（1）学校デジタル化推進協議会の活動促進

タブレット端末やアプリの活用、デジタル教科書、プログラミング教育など各校が抱える課題は、それぞれ異なることから、ICT担当教員と協議しながら実情に応じた研修機会を模索するための相談会などを実施した。

・グーグルジャパンによるICTリテラシー相談会 2/5 利小・鬼中、駕中

【評価と課題】

本町におけるICTの活用は、現場の先生方が一丸となり取り組んだ成果となつて、安全・安心で持続可能な教育環境の確保につながっている。

一方で、各校が抱える課題は異なることから、ICTの利活用に関する全体的な底上げを図るため、民間コーディネーターの派遣や指導力向上に向けたスキル研修を実施していくことが課題である。

(2) ICT機器・教材の活用と促進

- ・英語×ICT教育のベストミックス

鴛泊中学校において、英語専科教員とALTによる小学校5・6年を対象とした英語授業を実施するにあたり、ICT教室に電子黒板を導入、設置し授業展開を図った。

- ・一人一台端末、AI教材アプリ（キュビナ）を活用した授業、家庭学習の充実
- ・電子黒板（鴛泊中）、大型液晶テレビ、タブレット用プリンタ（鴛泊小）
- ・デジタル教科書の一層の活用

「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」

英語：全小中学校、算数・数学：鴛泊小・中学校

【評価と課題】

ICT機器の活用により、教師と児童生徒間でのコミュニケーションや子どもたち同志での学習内容の共有により、授業への興味・関心、理解促進に繋がっている。

タブレットに備わっている様々な機能やアプリを最大限に活用していくことやデジタル教科書の一層の活用が課題となっている。と同時に、教員の段階に応じたスキルアップやICTを使った研修が必至である。

③ 学習環境の整備と支援教育の推進

学校生活における子どもたちの安全と安心を確保するため、学びを保障する取組の継続が必要である。

(1) 防災や防犯、交通安全教育の実施

- ・1日防災学校の実施

利尻小・鬼脇中（6/22）消防署（避難訓練、ビデオ視聴、講話）

鴛泊小（9/6）消防署（煙・消火体験、クイズ）、振興局・町防災（防災かるた、避難所運営ゲーム）

鴛泊中（9/29）消防署（避難訓練、オリエンテーション）、町防災（避難所設営、段ボールベッド組立）、気象台（豪雨災害等の講話）

- ・防災備蓄倉庫の設置

鴛泊小、鴛泊中各1棟建設（離島広域活性化事業「鴛泊地区学校施設（指定避難所）防災機能強化事業」）

- ・交通安全教室、啓発等の開催
- ・登下校時の安全確保、防災及び防犯対策

通学路の安全確保のための関係機関との情報共有

スクールバスの小型化（14人乗りバスの購入）

Jアラートや気象警報発令時における対応マニュアルの確認

熱中症対策の啓発と環境整備（エアコン設置の検討、ガイドライン・マニュアルの策定に向けた諸準備）

保護者への「安心安全メール」を活用した迅速な情報発信（臨時休業、繰り上げ・繰り下げ登下校、集団下校、不審者情報等）

【評価と課題】

各学校における1日防災学校の報告書記載の評価や課題について、以下に挙げる。

- ・利尻小・鬼脇中 訓練を重ねるごとに意識が高まり、整然とした避難ができた。教師側の役割も整理されスムーズに動いていた。課題としては、点在している児童生徒を効率よく安全に避難させる体制の構築が必要である。
- ・駕泊小 多くの関係機関との連携により、学年に合わせた学習を行なうことができた。課題としては、授業時間内ではなく、休み時間など児童の居場所が確実ではないときの訓練を計画することが必要である。
- ・駕泊中 生徒は、気象台の講話から「まさか」ではなく「もしかしたら」という視点で災害に備えることの大切さを感じ取っていた。「キキクル」を生徒のタブレットにブックマークし、自ら災害予測できるようにした。課題としては、保護者向けにも周知をしたが参加が少なかったため、日程等含めPTAと協力できる活動に広げることが必要である。

今後も、災害は身近なものであるという認識を常に心がけられるよう、授業の必須科目として毎年すべての学校で防災教育を実施できるよう、町教委としても関係機関との調整や連携、サポートに取り組むことが課題である。

(2) いじめ防止の取組と児童生徒に対する各種支援

学校での「いじめ問題」は未然の防止、早期発見・組織的な対応が非常に重要であるとともに教職員全員が意識をもって積極的な「認知」を理解する必要がある。いじめ防止基本方針に基づいた組織的な対応によるアプローチの徹底、潜在化し認知漏れとなることのないよう、検証するとともに子どもたちが主体的にいじめ問題について考え、議論するなどいじめ防止に資する活動に取り組むことが必要である。

- ・子どもの心に響く道徳教育などを通じて、さまざまな価値観や自分をみつめる機会を醸成する。

講演・実技指導（元コンサドーレ札幌 芳賀博信氏（ブラインドサッカーチーム運営）
11/6 駕小・駕中）

- ・奉仕、体験活動等、町内行事やボランティア活動への積極的参加
- ・絆づくりメッセージコンクールへの応募（啓発活動）

【評価と課題】

各学校においては、保護者や児童生徒との面談や話し合い、定期的なアンケートを行うなど、問題の早期発見、早期対応、早期解決に向けた取組を継続して行っている。

しかしながら、いじめや不登校はいつでもどこでも起こることを念頭に、常に複数の目で見守り情報を共有することで、教職員全員が児童生徒の担任であるという意識をもちながら、組織的な指導・支援を行う取組を充実強化することが、再発防止につながる取組として重要であり、課題となっている。

・北海道公立学校スクールカウンセラー派遣事業による学校派遣

西郷達雄氏（北海道医療大学心理科学部）による児童生徒・保護者への個別カウンセリング、ストレスなどに関する授業、教職員への助言等を下記日程で行なった。年度末には、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、個別や集団（クラス）の実態を調査・集計した。

駕小 4回 6/29、9/21、10/24、12/14 駕中 3回 6/28、10/25、12/14
利小・鬼中 3回 9/20、10/26、12/13 利高 3回 9/22、10/26、12/15

【評価と課題】

スクールカウンセラー派遣については、専門的かつ定期的に行なうことができた初年度であり、学校との信頼関係を構築しながら、家庭に対しても取組の認知度を高めることができた。今後大学との連携も視野に、派遣制度や支援ツールなどを活用しながら、就学時からの支援を強化し、発達段階に応じた支援体制の充実をめざして重点的に取り組んでいくことが課題である。

・学校トイレへの生理用品の設置

【評価と課題】

設置にあたっては、女子トイレのほか従来通り保健室としたうえで、取組にかかるアンケートを保護者・児童生徒向け（小4～中3女子）に実施。うち94%が取組について「必要」と回答しており、心理的安心や他人の目などを気にせず使える、など肯定的な意見が多くみられた。

（3）教職員の資質・能力の向上と環境整備

- ・「学校における働き方改革アクション・プランⅢ」の策定
- ・校務支援システム（C4th）による時間外勤務状況の把握と分析、公表
- ・校務支援システム、イントラグループウェア（サイボウズ）
- ・留守番電話サービスの継続

運用時間：教職員の勤務時間外（午後4時35分～午前8時5分）を基本とし、土日祝日や振替休業日、学校閉庁日を対象

- ・長期休業中における学校閉庁日の設定

夏季：駕泊小14日間（8/2-15）、駕泊中7日間（8/9-15）、利尻小・鬼脇中6日間（8/10-16）

冬季：駕泊小・駕泊中11日間（12/29-1/8）、利尻小・鬼脇中8日間（12/29-1/5）

- ・教職員検診の実施、共済組合による各種福利厚生事業
- ・利尻島教育研究会活動に対する支援
- ・教職員住宅の新築（駕泊2LDK2棟）と住宅営繕
- ・部活動の地域移行に向けた協議（9/11準備会、10/30・3/4検討協議会の実施）

【評価と課題】

教員の時間外勤務（在校時間）を校長会・教育委員会で具に把握し、校務支援システムやタブレット端末等 I C T を媒体とした情報共有を図ることで、職員会議の減少や短縮を進め、土日勤務の軽減、学校閉庁日の設定、留守番電話の継続を進めるなど改善を図っている。

さらには、部活動の地域移行に向けた協議もスタートさせ、子どもたちの選択肢を失わせないことを最優先に、地域におけるスポーツ文化活動の環境整備を進めていけるよう共通理解を図った。なかでもサッカーについては、次年度から試行実施することで合意を得ており、試行による課題を洗い出しながら、ほかの種目や体制についても協議していく。

（４）健やかな体の育成と体力、運動能力の向上

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施

小5（18名）	男子	女子
本町（北海道）	56.1(50.2)	49.2(50.5)
中2（19名）	男子	女子
本町（北海道）	51.4(48.8)	47.4(48.2)

*全国を50としたときの数値

【種目】

握力 上体起こし
長座体前屈 反復横とび
持久走 20mシャトルラン
50m走 立ち幅とび
ハンドボール投げ

【評価と課題】

調査結果からは男子は北海道平均を上回っているが、女子はやや下回っている。現状を自校分析などにより把握するとともに、地域のスポーツ団体や地域行事等と連携し体力・運動能力向上に努めることが課題である。

- ・食育の推進
- ・栄養教諭の学校配置（給食センターに常駐し、利尻小学校への配置）
栄養・食育指導の実施（各校巡回指導）

【評価と課題】

栄養教諭を中心とした各校巡回指導により、元気な体づくりと食習慣、食生活の大切さを理解させることが図られている。今後も各校巡回による食育授業を通じての啓発が必要である。

- ・各種健診の実施及び保健指導の充実
学校保健安全法に基づく各種健診等の実施やへき地児童生徒巡回検診事業（眼科）

【評価と課題】

児童生徒の健康の保持増進を図るため適切な健康相談及び健康診断が実施されている。今後も適切な指導により、児童生徒の健康管理や疾病の予防・早期発見に努める必要がある。

(5) 特別支援教育の充実

- ・ 鴛泊小学校（2学級）、利尻小学校（2学級）、鬼脇中学校（1学級） 設置
- ・ 特別支援教育支援員の配置（鴛小2人、鴛中1人、利小1人）
- ・ 稚内養護学校のパートナー・ティーチャー派遣の活用
- ・ 教育支援委員会を核とした、特別支援連携協議会、要保護児童対策地域協議会、各種相談体制などとの情報共有や連携

【評価と課題】

全校的な支援体制の充実を図るため、今後も教職員の専門性の向上を図り、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう、特別支援教育を推進する必要がある。実態に即した支援を継続するため、教材やパートナー・ティーチャーの積極的な活用を図ることができている。

各協議会の枠を越えた情報の共有や体制の協議など、学校・家庭・地域・行政など関係機関と連携し、全町的な課題として取り組むことが課題である。

(6) 保護者等への教育支援

- ・ 特別支援学校等通学費助成（高等部 50 千円、小学部・中学部 100 千円）
各 1 件
- ・ 準要保護扶助費の状況
小学校 1 名 中学校 6 名
- ・ 育英資金貸与の状況
継続 6 名（大学 4 名、高校 2 名）
新規 1 名（専門学校 1 名）
- ・ 学校給食費の無償化
町の子育て支援策として、昨年度に引き続き無償化

【評価と課題】

経済的に困窮する児童生徒や保護者への就学援助であり、継続して実施することが必要である。

学業優秀であるが経済的理由により就学困難な生徒に対する就学資金貸付制度であり、有為な人材育成のため、今後も継続した取組が重要である。

一方で、本資金は貸与であることを理解いただき、徴収事務に支障をきたさないよう努めることが課題である。

(7) 利尻高校への支援

- ・ 各種補助金
商業クラブ活動、体育文化後援会活動、模擬試験
ふるさと教育（全島一周、利尻山登山、礼文島トレッキング）
- ・ 島内事業所見学会の受入（高1）
- ・ 総合的な探究の時間（学習成果発表会）

- ・中高連携協議会への支援

【評価と課題】

6年度からの一間口減（普通科のみ）という再編がなされているが、島内唯一の高校として、学習面や卒業後の進路に対するサポートは、より充実化が図られている。

小中学校や保護者向け説明会の開催など、PR活動も含めて、中高間の連携や高校生のイベント等への参画などを通じて、地域との一層の連携が課題となっており、町としてもできる限りの連携とサポートに努める。

2 心豊かな人づくり～社会教育と生涯学習の充実～

第3期利尻富士町生涯学習推進計画（2021～2030年）に謳われているとおり、「ふるさとを支える、人の魅力があふれるまち」をスローガンに住民一人ひとりの学習活動を基本に、地域の良さや可能性を最大限に活かし、相互のつながりを深めた地域づくりによる社会教育を進めることを重点とする。

① 施設の利活用と団体・個人への支援

（1）施設利用者数 *カッコ内は前年比

社会教育施設の適切かつ効率的な施設運営

総合体育館	2660人 (-467)	パークゴルフ場	1424人 (-44)
スキー場	1646人 (-501)	翔武館	653人 (+142)
地域青少年会館	600人 (+165)	野球場	58人 (+4)
公民館	1686人 (+660)		

【評価と課題】

施設の管理委託を含め、利用者の利便性や安全性を考慮しながら、各施設の整備と維持補修等を計画的に行い、適切な運営に努めることが重要である。

また、施設の老朽化や維持管理計画に沿って、学校体育館も含めた施設の統合や整備利活用について、利用者・団体と協議し方向性を見出すことが課題となっており、町との連携も含めて模索している段階である。

（2）スポーツ・文化活動の推進

住民のスポーツ・文化活動は、団体や個人それぞれで楽しみ学ぶものであることから、行政として団体組織への助成金ばかりではなく、活動に対する相談や仲間づくりの手助けなどの体制を整え、こうした個々の活動に対する支援を通じて、地域づくりの担い手を発掘し、実行委員会等で組織されるさまざまなイベントや大会への参画を促すことで、地域全体の活性化に結び付くよう取り組む。

- ・各種団体への助成、活動支援

利尻富士町体育協会補助金 350千円

利尻富士町文化協会補助金 360千円

青少年スポーツ・文化活動育成補助金 400千円

- ・各種スポーツ大会、イベントへの支援
 - 教育長杯ミニバレー大会 5/28
 - 第 21 回利尻島一周悠遊覧人G 6/3-4
 - わんぱくマラソン大会 7/8
 - 劇団四季公演「人間になりたがった猫」 8/21 どんと
 - 第 33 回利尻島一周ふれあいサイクリング 8/26-27
 - さわやか駅伝大会 9/10
 - 利礼地区少年野球交流大会 9/24
 - 教育長杯パークゴルフ大会 鬼脇 7/9、鴛泊 10/8
 - 町文化祭総合開会式 11/4 りぷら
 - 一般作品展 11/12-13 公民館
 - 一般・子ども作品展 11/21-23 りぷら
 - 第 34 回雪ん子広場 2/3
 - りしり寒飲まつり 2/11
 - 町民スキー大会 2/18 鴛泊スキー場
 - 宗谷管内スポーツ推進委員研修会 3/24

【評価と課題】

文化協会主催の総合開会式は、日頃の文化活動の成果披露の場として、コロナ禍後ようやく再開されることとなった。劇団四季公演についても利礼 3 町の児童生徒対象とした公演が再開され、本物の芸術文化にふれる希少な機会となっている。

スポーツ・文化活動に関わる団体や個人にとって、一緒に関われる仲間づくりはもとより、普段の練習や制作の成果となる発表や披露の場の充実が不可欠となっている。

イベントにおいては、全島規模の利尻島一周悠遊覧人Gなどはスタッフの確保などに課題を残しており、またわんぱくマラソンなどは参加者数減に伴い、事業の見直しや統合なども含め検討の時期に来ている。

・公民館教室

- 南浜獅子神楽子ども教室 15 名（7 回開催） 6/29 北見神社後宮祭にて演舞披露
- 母の日に贈るカーネーション作り教室 5/9 公民館、5/10 りぷら（16 名）
- そば打ち教室 12/3 りぷら（24 名）
- しめ飾り作り教室 12/17 りぷら（13 名）

【評価と課題】

町の無形民俗文化財である「南浜獅子神楽」では、大人の演舞披露が北見神社宵宮祭で 4 年ぶりに披露された。後宮祭における子どもの演舞は初の試みであり、祭典に花を添える取組となった。会員の確保については急務であり、保存会との連携による伝統文化の継承のための継続した取組が課題となっている。

ものづくりに関わる教室については、時代に即した内容やニーズの把握などが課題である。なお、しめ飾り作りについては、材料の高騰や入手困難、参加者数減などを勘案し、今後の実施を見送っている。

② 地域と学校をつなぐ支援活動等の推進

青少年の健全育成については、学校・家庭・地域の連携を図りながら、「地域ぐるみの子育てや見守り」を一層進めることが必要である。

(1) 青少年の健全育成

- ・利尻富士町青少年健全育成町民会議等

第24回親子ふれあい歩こう会 7/23 参加者 60名 (スタッフ 14名含む)

夏休みチャレンジ教室 8/7～11 参加者 23名、教育大旭川校 7名、スタッフ 11名

冬休み子ども体験教室 1/11～12 参加希望者少数のため中止

【評価と課題】

次代を担う青少年が、自他共にかけがえのない存在であることを認識し、また社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加できるよう、家庭・学校・地域が連携して青少年をとりまく環境の整備を行い、心身共に健康で、未来に希望をもつ青少年の育成を推進している。

主催事業については、年々参加者数が減少しており、事業の内容やニーズに対する検証が不可欠であり、継続するか否かも含め検討の時期に来ている。

- ・放課後子ども教室推進事業の推進

平日放課後子ども教室 鴛泊 37名登録 (216日開催)、鬼脇 5名登録 (159日開催)

水泳教室 53名 (17回開催)

バドミントン教室 鴛泊 2名 (29回開催)、鬼脇 10名 (38回開催)

カルタ教室 7名 (30回開催)

鴛泊スキー教室 16名 (5回開催)

絵画教室 11名 (7回開催)

【評価と課題】

これまで保護者の要望により、放課後や週末に子どもたちが、地域社会の中で安全で安心して過ごせる活動拠点(居場所)が提供されたきた。「平日放課後子ども教室」をはじめ、水泳やバドミントンなどは地域の指導者あつての事業展開であり、地域や保護者から一定の評価をいただいている。今後も指導体制の強化や整備を図り継続することに重きを置きたい。

新規教室としては、絵画が指導者からの要望に応じ開催、スキーは少年団活動の低迷による教室化という選択肢を余儀なくされたもので、今後の教室運営のあり方を考えるうえでの課題となっている。

- ・ふるさと教育体験事業 利尻島上空 HAC 遊覧飛行 (5/12、両町小学校 6年生)

(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の取組と体制の推進

学校・家庭・地域が連携して、社会全体で子どもたちを健やかに育むことが重要であり、学校の教育活動や学校運営の状況を積極的に保護者や地域に情報提供するなど、開かれた学校づくりに努める。本協議会は、駕泊地区（5/18、11/2、3/19）、鬼脇地区（5/17、11/21、3/21）それぞれで組織されており、各3回ずつ開催した。

・協議の要点

【第1回】コミュニティ・スクールの役割

今年度の学校運営・教育活動について
地域への要望・協力事項（学校支援関係）

【第2回】前期の報告と後期に向けて

学校支援の広報について

【第3回】令和6年度学校運営・経営方針の説明・承認について

・学校支援地域本部事業の推進

部活動支援、大会への外部コーチ派遣（バドミントン、卓球）

授業支援（講師・ボランティア派遣）

柔道（両中学校合同）、ダンス、スキー、図工（絵画）、総合学習（水産業、福祉）、生活科（鮭とばづくり）、社会科（歴史、施設見学）、森林・林業体験学習、本の読み聞かせ、新入生下校指導、議会見学・学習

【評価と課題】

学校の要望に応じて、地域が学校運営へ参画できる機会として、支援本部（社会教育係）が仲介しながら、進めてきた取組であり5年度についてはこれまで以上に多岐にわたる学習成果が得られた。

今後も「地域ぐるみの子育て」に焦点を当て、要望に応じた人材の発掘や交流を図り、子どもと地域の大人との関わりを増やすことが重要である。

さらに、部活動の地域移行の問題なども含めて、継続して取り組めるシステムづくりが課題となっている。

・学校評価の積極的な取組の推進

学期末ごとの定期的なアンケート調査

学校ホームページの活用

駕泊地区学校運営協議会委員による各校評価に対する関係者評価の実施

【評価と課題】

アンケート調査等による学校評価の自己点検の充実を図り、課題の整理と改善策に取り組むことが今後も必要である。

地域に開かれた学校づくりの一環として、学校ホームページを媒体とした定期的な情報発信やフォームの活用は、教員の働き方改革やペーパーレスにも寄与しており、かつ各家庭にとっても利便性の向上につながっている。

(3) 学校等と連携した読書活動の推進

- ・「利尻富士町子ども読書プラン」（令和4年度～令和8年度）に基づく計画の推進
読み聞かせボランティアによる学校支援
学校ブックフェスティバルの開催（協力支援：道立図書館） 7/12 鴛小
第37回読書感想文コンクールの実施（応募総数 82点）
ブックスタート事業
札幌市よみきかせボランティアSKYによるシベリア抑留体験読み聞かせ 9/28 鴛小・利小

【評価と課題】

本に親しむ機会づくりとして、地域の読書ボランティアの活動による小学校低学年への読み聞かせを継続的に実施している。読書ボランティアサークル「りっぷの森」による朝読書の時間を利用した読み聞かせ活動（鴛泊小1・2年生）で、10名の登録により展開することができた。鴛泊小では、道立図書館支援の下、学校ブックフェスティバルを開催し、児童が多くの本に親しむ機会を創出することができた。

③地域の文化財保護活動の推進

本町の歴史や伝統を伝える様々な文化財を大切に保護するとともに情報の発信に努めることを重点とした。

- ・郷土資料館の継続利用（入館者 6157名）
開館50周年記念グッズ（缶バッジ）の配付
- ・郷土資料の収集・調査の継続
主な収集資料 個人4件（御膳、陶器、古写真等）
北海道デジタルミュージアムへの資料登録 *右QRコード参照
- ・講座・普及事業
学校授業等支援活動の実施（2回）
外来種防除会 7/17 北麓野営場
第8回フィールド発表会 9/27 博物館
管内巡回展「北のシルクロードと蝦夷錦」6/10～7/9 カルチャーセンター 91名来場
広報等による広報活動の推進
レファレンス対応（ルーツ探し、調査、視察、各種番組取材）
- ・調査研究事業
利尻神社下遺跡詳細分布調査 5/19-22（東大 福田准教授・夏木特任助教参加）
5/20 遺跡調査見学会・体験会



【評価と課題】

今後も情報発信を図り、町内外にある資料の積極的な調査、収集を行う。遺跡調査では、今後も大学との連携を見越した成果が得られている。

収集・調査した資料については、今後もデジタルミュージアムの制度を最大限活用し、教育目的などの汎用データとして、利便性を向上させることが課題である。

また、遺跡調査については、島外の研究者や大学などとも連携し、学校教育との連携や史実の肉付けなど住民の理解と周知を進めていくことが課題にある。

各種参考資料

利尻富士町教育大綱 2024 年度～2026 年度

利尻富士町学校教育推進計画 2024 年度～2028 年度

利尻富士町立学校における働き方改革アクション・プランⅢ（2024 年 3 月改訂）

第 3 期 利尻富士町生涯学習推進計画 2021 年度～2030 年度

第 3 期 利尻富士町子ども読書プラン 2022 年度～2026 年度

令和 5 年度 利尻富士町社会教育年報

令和 5 年度 利尻富士町文化財年報